

～「公共」ハンセン病資料館×新聞活用(NIE)～

この文章は当時、東村山第二中学校全生分教室(ハンセン病療養所)に在籍していた中学3年生の「卒業式答辞」である。みんながこの生徒の担任の先生(自分はハンセン病ではない)であったなら、卒業式後のHRでどんなことを語りかけますか？(どんな言葉掛けをしますか?)

中学生の卒業式答辞

いつ退園できるかわからない病気。もし退園しても、今の私のように又、入園するかもしれないのに、なんでバレリーナになれる可能性があるだろう。たとえ夢であろうとバレリーナになった自分を想像している私がいやになった。(中略)

今はだから私には夢がない。だが私は、自分の生き甲斐のある人生が欲しい。生きているということを自分自身で味わってみたい。そして社会人として精いっぱい働いてみたいのだ。療養所のように垣根のない自由な世界で、自分が生きていることを確かめてみたいのだ。愛生園の高校などに行きたくない。もうこれ以上、囲いのある生活はしたくない。できるものなら早く退園し、この十年間の空白を埋めたい。

この私の願いを夢といえるのなら、私は夢をもっているのだ。

【バレーナーへの夢】「青い芽」第5号 東村山第二中学校全生分教室 1962(昭和37)年
※作者は当時全生分教室に在籍していた中学3年生の生徒。

【ワーク①】

左の卒業式答辞を読んで、あなたが担任なら卒業式後のHRでどんな言葉掛けをするかを書いてみよう！

(国立ハンセン病資料館より)

私には夢がある。

いつの日か、この国が立ち上がり、「すべての人間は生まれながらにして平等である」というこの国の信条を真の意味で実現させるという夢が。

私には夢がある。

いつの日か、ジョージア州で、かつての奴隷の子孫たちとかつての奴隷所有者の子孫たちが、兄弟の間柄として同じテーブルにつくという夢が。

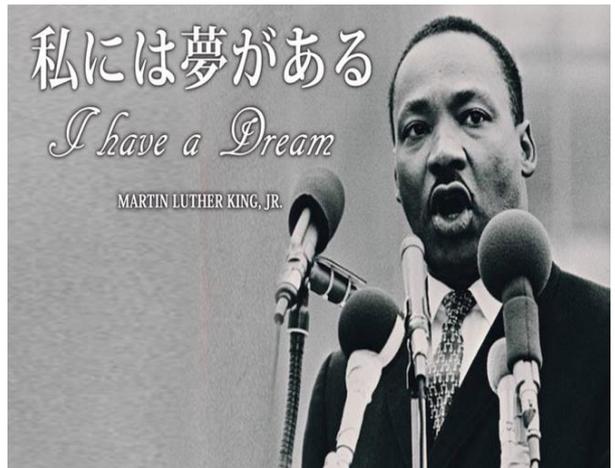
私には夢がある。

いつの日か、私の4人の幼い子どもたちが、肌の色ではなく、人格の中身によって評価される国で暮らすという夢が。

今日、私には夢がある！

私には夢がある。いつの日か、卑劣な人種差別主義者たちがいるアラバマ州でさえも、いつの日か、黒人の少年少女が白人の少年少女と兄弟姉妹として手を取り合うようになるという夢が。

今日、私には夢がある！



【ワーク②】

中学生の卒業式答辞とキング牧師のスピーチを比較して、考えたことや感じたことを書いてみよう！

(キング牧師のスピーチ 一部抜粋)

